

氏名	村 上 政 江		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2654 号		
学位授与の日付	平 成 5 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	施設入所中の精神遅滞男性における脆弱X症候群の頻度とその臨床心理学的特徴		
論文審査委員	教授 黒田 重利	教授 大田原俊輔	教授 庄盛 敏廉

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

遺伝性疾患は心身障害の主要な原因であり、その疫学的実態の解明は予防に必要である。X-連鎖性に遺伝する脆弱X症候群は精神遅滞の重要な原因である。しかし、日本人では脆弱X症候群の罹患率や臨床心理学的特徴について十分に検討されていない。脆弱X症候群の頻度と行動特性を知ることが目的に、施設入所中の精神遅滞男性183例を対象に、細胞遺伝学的調査と臨床心理学的検討を行った。脆弱X染色体誘発法により、6例(3.3%)に脆弱X症候群を検出した。この6例の行動特性を年齢・知能が一致した自閉性障害および精神遅滞の対照群と比較検討した。新版SM社会生活能力検査では、脆弱X症候群では自閉性障害群と異なり行動の自立性が保全されていた。自閉児の行動評定(CLAC-II)では言語、非言語による表現活動の障害が示唆された。DSM-III-R(自閉性障害の診断基準)では、他者の感情や存在を認識できるが、見知らぬ者や環境を回避する性向が認められた。日本人精神遅滞男性における脆弱X症候群の頻度は白色人種の頻度と近似しており、本疾患の遺伝子変異が民族を問わず均等に浸透していることが示唆された。臨床心理検査の結果から、言語、非言語的な表現能力の障害と極度の社会的回避のために、脆弱X症候群の一部は自閉性障害を示すと考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脆弱X症候群の細胞遺伝学的ならびに臨床心理学的研究をおこなったものであるが、本邦での出現頻度が白色人種とほぼ等しいこと、意志伝達の障害、回避的生活など

の自閉症を示しやすいことを明らかにするなど、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。